

中国は主張する

望海楼札記

第1部 望海楼ノート

第2部 日中宗教交流(日中友好宗教者 懇話会)

第3部 中国共産党の10個の「なぜ」

内容紹介

地理的にも経済的にも、日中は切り離せない関係になってしまっている。嫌いだからと言って、相手を見殺しに付き合えないのは子供の喧嘩だ。好きであれ嫌いであれ、相手を十分研究、理解するのが大人のやり方である。何かもめ事があっても、日本の意見を主張すると同時に、中国の言い分も聞いてみなくてはならない。

この「中国の言い分」を知り、中国を理解するうえで、「中国は主張する」は最高の書だ。著者の葉小文氏は政治、経済だけでなく、文化や宗教にも造詣が深い。「望海楼」は人民日報海外版に連載中のコラムなので、ある程度中国側の見解を代表しているとも言える。また、氏は日中友好21世紀委員会の中国側委員も務められ、訪日経験もあるので、日本の事情にも詳しい。

葉小文氏の文章を読めば、「引越しのできない隣人」中国への理解も深まり、よりよき日中関係を形成でき、それは日中国交回復四十周年及び日中平和友好条約締結三十五周年のよき記念となることは間違いない。

【著者紹介】 葉小文 (よう しょうぶん)、1950年生まれ、湖南省寧郷出身。宗教学博士。中国共産党中央委員会委員。全国政治協商會常務委員。中央社会主義学院第一副院長。元国家宗教事務局局長。中国宗教学会顧問、中国戦略文化促進会高級顧問、中国人権研究会副会長、中国外交学会常務理事、中日友好21世紀委員会中国側委員。中国人民大学博士コース指導教授、北京大学、南京大学、南開大学、東南大学、四川大學、貴州大学、中央党校、国家行政学院、国防大学、長江商学院等客員教授を兼任。著書には『多岐な視角から社会問題を見る』、『対抗を対話に変える』、『中国における宗教の実情をアメリカ国民に知ってもらおう』、『心から始まった足どり』、『宗教についての7日間に分かれた談話』、『短文百編』、『宗教の問題をどのように認識し、どのように対処すればよいのか』などがある。

葉小文 著 多田敏宏 訳

日本僑報社 ISBN 978-4-86185-124-7



【訳者紹介】 多田 敏宏 (ただ としひろ) 1961年、京都市に生まれる。1985年、東京大学法学部卒業。1986年、京都府庁に勤務。2006年8月京都府庁退職。2006年9月から2011年7月まで、中国の大学で日本語を教授。主な訳書、『温家宝の公共外交芸術を探る』、『わが父、毛沢東』、『朱鎔基伝』、『中国人、食を語る』、『ハイアールの企業文化』、『湖南商人』など。

ご注文は、日本僑報社 e-shop (中国研究書店)、アマゾンなどをご利用いただくか、またはこのチラシを書店にご提示ください。(トーハン 日販 その他 取次コード: 5752)

 <p>おかげさまで 20周年 since 1996</p>	<p>中国は主張する一望海楼札記</p> <p>ISBN 978-4-86185-124-7</p> <p>発行日：2013年3月22日</p> <p>A5判 260頁 上製</p> <p>定価：本体 3500円 + 税</p>	<p>注文部数</p> <p>部 (送料無料)</p>	<p>ご注文 / 番線印</p> <p>ご注文の方は、 注文部数、住所 〒、氏名、電話番号をご記入ください</p>
	<p>日本僑報社 e-shop http://duan.jp</p> <p>送信 FAX 03-5956-2809</p>		